

## 馬獣医のよもやま話④9 池田寛樹獣医師

### 交配誘発性子宮内膜炎について

静内診療所 池田寛樹

平成22年3月 酪農学園大学卒業

同年4月 日高軽種馬農協入社

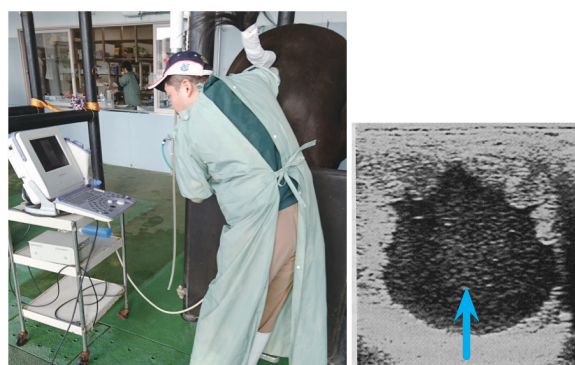
静内診療所勤務 現在に至る

4月に入りお産や種付けで忙しい日々をお過ごしでしょうか？繁殖シーズンということで今回は交配誘発性子宮内膜炎についてお話したいと思います。あまり聞きなれない言葉かもしれませんが、繁殖牝馬の不受胎の原因として多い病気ですので最後までおつきあいください。

まずは、交配から受精までの流れを簡単におさらいしたいと思います。交配により子宮内に射精された精子は約4時間で子宮からその先の卵管へと移動します。卵管へと移動した精子が排卵された卵子と受精すれば、約5日後に受精卵として子宮内へと戻ってきます。この頃までに受精卵の発育に必要な子宮内環境が整っていることが重要です。子宮の浄化作用（きれいにする能力）が正常な繁殖牝馬では交配後速やかに残った精液を排泄し、受精卵が移動してくるための子宮内の環境を自ら整えることができます。しかし、子宮の浄化作用が不完全な場合は、排泄しきれず子宮内に残った精液が炎症を引き起こし、子宮内に貯留液が出現してしまいます。これが交配誘発性子宮内膜炎です。子宮内の炎症が持続することで、子宮内に移動してきた受精卵を直接的に傷害したり、妊娠の維持に重要な黄体の早期退行を引き起こし、結果として不受胎となってしまいます。

交配前のエコー検査で子宮内に貯留液を認める馬は罹患するリスクが高いですが、子宮内の貯留液を認めなくても交配誘発性子宮内膜炎になることは少なくありません。ですので、こういった状態を発見するには交配後のエコー検査で子宮内に貯留液がないかどうかを確認することが大切です。交配翌日、遅くとも翌々日までに実施することをお勧めします。最近は排卵促進剤の使用の増加により排卵検査が減ってきているかもしれませんが、交配後のエコー検査は交配誘発性子宮内膜炎の早期発見につながり、適切な治療を行えるので、大切な検査だと考えております。

治療の方法としては、不完全な子宮の浄化作用を補助してあげることを目的として、交配後の子宮収縮剤（オキシトシン）の投与や子宮洗浄さらには感染予防のための子宮内への抗生剤投与が中心となります。過去に交配誘発性子宮内膜炎にかかったことがある馬や交配前から子宮内に貯留液を認める馬では、交配前の治療も効果的です。



図：交配後のエコー検査と子宮内貯留液（矢印）

最後までおつきあいいただきありがとうございました。何かご不明な点などがございましたら、いつでもご相談ください。